

# 知的学習システム第3回レポート

1930099 服部 凌典

電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報学専攻

## 1. 課題1

フーリエ級数展開は

$$f(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} (a_k \cos kx + b_k \sin kx) \quad (1)$$

である。ここで、

$$a_k = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos kx \, x \quad (2)$$

$$b_k = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin kx \, x \quad (3)$$

である。(1) 式を展開すると、

$$\begin{aligned} f(x) = & \frac{a_0}{2} + \{(a_1 \cos x + b_1 \sin x) \\ & + (a_2 \cos 2x + b_2 \sin 2x) + \dots + \} \end{aligned} \quad (4)$$

となり、

$$f(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} \mathbf{w}_k \boldsymbol{\phi}_k(x) \quad (5)$$

と表せる。ただし、 $\mathbf{w}_k = (a_k, b_k)$ ,  $\boldsymbol{\phi}_k(x) = (\cos kx, \sin kx)^T$  とする。よって、フーリエ級数展開は線形回帰基底モデルである。

## 2. 課題2

与式の数尤度関数は

$$\begin{aligned} \ln p(\mathbf{y}|\mathbf{w}, \beta) = & \ln N(y_1|\mathbf{w}^T \boldsymbol{\phi}(x_1), \beta^{-1}) \\ & + \ln N(y_2|\mathbf{w}^T \boldsymbol{\phi}(x_2), \beta^{-1}) \\ & + \dots + \ln N(y_n|\mathbf{w}^T \boldsymbol{\phi}(x_n), \beta^{-1}) \\ = & \sum_{k=1}^N \ln N(y_n|\mathbf{w}^T \boldsymbol{\phi}(x_n), \beta^{-1}) \end{aligned} \quad (6)$$

である。また、数尤度関数の勾配は

$$\begin{aligned} \nabla \ln p(\mathbf{y}|\mathbf{w}, \beta) = & \sum_{k=1}^N y_n \boldsymbol{\phi}(x_n)^T - \mathbf{w}^T \left( \sum_{k=1}^N \boldsymbol{\phi}(x_n) \boldsymbol{\phi}(x_n)^T \right) \\ = & \mathbf{0}^T \end{aligned} \quad (7)$$

である。

表 1: N と M に対応する MSE

	10	100	1000
2	0.85	0.63	0.62
4	0.85	0.63	0.62
8	0.85	0.63	0.62

## 3. 課題3

関数を  $f(x) = 10 * (x - 0.5)^2$  と定め、サンプル点  $N = \{100, 1000, 10000\}$ , 基底関数の個数を  $M = \{2, 4, 8\}$ ,  $s = 2$ ,  $\beta^{-1} = 0.7$  として実験する。評価方法として平均二乗誤差 (MSE) を用いる。表 1 にそれぞれのサンプルでの MSE を示す。表 1 から、mse はデータセットの個数が多くなるにつれて低くなり、元の関数に回帰モデルが近づくことを確認している。一方で、基底関数の個数による mse の変化は見受けられなかった。